

# 「これって、DV?」

暴力は身体への危害だけではありません

ドメスティック・バイオレンス(DV)は、対等な立場である夫婦喧嘩ではありません。男女の経済的格差や相手を下に見る意識など、男女が対等な関係でなく相手を支配しようとする行為です。被害者が男性の場合もありますが、圧倒的多数は女性です。

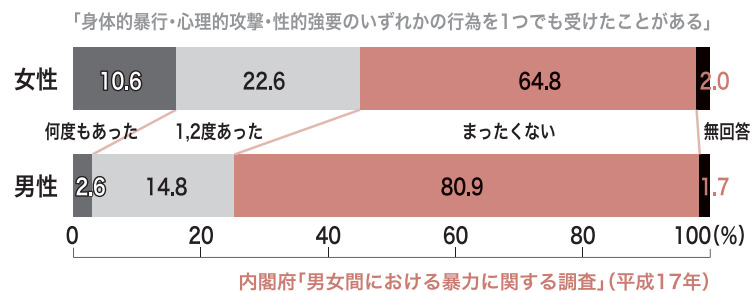


## DATA

ドメスティック・バイオレンス

### ●配偶者による暴力の被害体験

国の調査によるとDVにあたる行為の被害体験がある人は、女性では3人に1人となっています。また、1割の人はそうした行為が何度もあったと回答しています。



### DVは子どもにとって虐待

父親が母親をなぐったり暴言を浴びせるのを見て、子どもは傷つき不安におびえます。実際に暴力を見ていなくても、母親がびくびくしたりする気配を子どもは敏感に感じとります。DVが起こる環境では、本来、家庭が子どもを守る場所であるという役割を果たせません。子どもへの直接の暴力がなかったとしても、安全に安心して暮らすことができないという点で子どもへの虐待にあたります。

また、「母親を守れなかった」と自分を責めてしまったり、暴力を問題解決の方法として学んでしまうなど、子どもの成長に深刻な影響を与えることがあります。大人になって、自分自身が親密な関係を築くときに困難を抱えてしまうこともあるのです。

### どんなことが暴力だと言える?

暴力とは身体的なものだけではなくありません。相手の言葉や行動、ふるまい方によって、恐怖を感じたとすれば、それは暴力だと言えます。例えば、大声で罵倒されたり、繰り返しまらない人間だと言われたりして、あなたが自分に自信がなくなったとしたら、あなたの心に傷を負わせていることになります。意思に反したことを強要されたり、行動を制限されることは、あなたの自由に生きる権利を侵していることです。DVは、重大な人権侵害です。

### こんなことも暴力になります

#### 精神的暴力

何を言っても無視する、ののしる、なぐるふりをしておどす、交友関係を監視する、外出を制限する など

#### 性的暴力

無理やりポルノを見せる、避妊に協力しない、相手の意思に反して性行為を強要する など

#### 経済的暴力

生活費をわたさない、借金を負わせる など

# インタビュー

もっと知るDV



暴力を受けてよい人など誰もいません



## PROFILE

高田 昌代さん

神戸市看護大学 看護学部/助産学専攻科教授  
日本DV防止・情報センター運営委員  
助産師活動に関する研究のほか、女性の健康、特にドメスティック・バイオレンスに関する研究多数。

### 誰もが被害者になる可能性がある

高校生や大学生にデートDVの話をする機会がありますが、携帯メールをひんぱんに送りつけるストーカーまがいの行為はデートDVだと話すと、急に教室がザワザワし出します。ほとんどの学生たちが思いあたるふしがあるんですね。デートDVにつながる行為は日常茶飯事に起こっています。だけど、そのことが暴力にあたる行為だとは思っていないんです。デートDVのことを知って初めて、恋人との関係をふり返るとDVかもしれないと思うんです。

### 思春期はデートDVに陥りやすい

思春期は、異性への関心が高まり恋愛にあこがれる年代。恋愛や性の情報は雑誌や友人からたくさん入ってくるので、自分も彼氏・彼女がほしいと思う子が多い。また、思春期の特徴として、自分というものが確立されていない、自分を認められるときと自分なんかダメだと思うときと気持ちの揺れ幅が大きいので、自尊心が低くなる傾向があります。こうしたことからデートDVにつながりやすい年代です。

しかし、デートDVは被害者の人生をも左右する問題。学業への影響、無力感、緊張の連続による不眠や食欲障害、妊娠、性感染症などその後の人生が大きく変わる可能性があります。

### イヤなことをイヤと言えるように

子どもから相談を受けたり、被害に気づいたときに、大人が頭ごなしに「別れなさい」と言うのは逆効果。思春期は大人に反発する時期でもあるので、自分が否定されたと感じることや彼のことを悪く言われたくないと思ひ、話をしなくなる。「あなたのことが心配だ」というメッセージを送ってください。ただし、身の危険が及びそうときには直ちに助けなければなりません。

暴力を受け続けていると物事を論理的に考える力が低下し、自分がどうしたいかが分からなくなってしまいます。それを理解して被害者の話を聞くことが大切です。子どもたちには、自分がイヤだと感じることはそれを表現していいのだと伝えてください。誰も暴力を受けてよい人などいないのだと。

大人は、子どもたちに対等な男女の関係を自ら示す必要もあります。大人の姿を見て、子どもたちは他人との関係の持ち方を学んでいくのですから。

若者のあいだにも起こっています。デートDV。DVは結婚している男女だけでなく、若い世代の交際中の男女にも起こっています。デートDVに関する著書もある、高田昌代さんにお聞きしました。